



水害に被災された方にお見舞い申し上げます

特別警報は、経験したことのないことへの対応

私の特別警報 旅行談

(その1) 私の特別警報旅行談



特別警報が発令されると、発令地域は大きな災害となってしまいます。

発令時のコメントに「今までに経験したことのない災害」といわれてピンと来ない人も多いと思います。

私の場合、2013年秋の特別警報(京都府・滋賀県・福井県)のなか、旅行から決死の覚悟で車で帰ってきたことを思い出します。

その警報は連休の最終日、岡山に泊まり早朝ニュースで知りました。

翌日の仕事もあり、とにかく帰らないといけません。

もちろん車で帰ります。

高速で行けるところまで行ってしまうと思ったら、大佐S. A(岡山県)から先は通行止めとの表示がありました。

関西へ帰る若いグループは、「通行止め解除までここにしよう」と会話していました。

水害の通行止めは、6時間は解除されないことを経験上知っている私にはここに留まる選択肢はありません。

「岡山県から一般道で帰る」と高速を降りて、国道を走りました。

特別警報を抜けるルートは2つ。大阪・滋賀経由 と 福知山・若狭経由。

大都市圏を避けるなら、福知山・若狭経由しかありません。

福知山に近づくにつれ、「一般国道も通行止め、迂回路なし」とのこと。

こんなときは、対向車に着目。災害時は地元スーパーに買出しの人はいます。

抜け道を教わりながら、「新潟まで頑張ってください。」と励まされました。

なんとか福知山市にたどり着いましたが、市内の主要幹線道路は冠水しており、カーナビは冠水道路を通れと指示がでます。

そこで高台方面の道をトライし、バックを繰り返しながら、何とか市内を抜けました。

（その2）福井県も大変なありさまでした。

福知山を抜け、舞鶴若狭自動車道を走ることができました。

「これで帰れる」と思ったのもつかの間、京都府に近づくや通行止めとなり、また、一般国道へ。若狭を目指して山を下りる国道を走ります。

若狭から敦賀までの国道は山沿いにあります。国道へ土砂が流れてこんでおり、数キロごとに通行止め。迂回してまた国道へ戻ること十回以上。

（その3）こんなときは見慣れた風景に癒される。

普段は見慣れた景色が、混乱時にはほっと癒されますよね。

朝5時からの運転し、夕方に敦賀の国道風景を見たら、ほっとしたと同時に力が抜けてきました。

敦賀駅前ホテルに宿を取り、夕食を食べたら即寝てしまいました。

翌朝3時から車を走らせ、朝8時着、そこには仕事をして私がいました。

（その4）特別警報を振り返る

今一度、特別警報の中を走行したいかとは思いません。

極限状態の中だったから、頑張れたと思います。

大雨は深夜、早朝の岡山ではなんとも無かったので、特別警報を甘く考えていました、

今回が5回目の特別警報でしたが、発令の度に思い出す困難な帰宅路でした。

最近、穴の無いゴム状のベルトを購入しました。
穴がないベルと
（伊勢丹6000円）
ウエストのサイズダウンを実感している、
ワンダーコアスマート生活5ヶ月目の買い物です。



万代つばさグループ代表
発行者 八百板 誠

（ 税理士法人 万代つばさ 代表社員税理士 ）
（ 八百板誠行政書士事務所 ）

事 務 所 ： 新潟市中央区下大川前通7ノ町2230番地 （8階建の1階奥です）

025（228）4697

編集者より 記事は独自の調査分析により書き上げております。

明示、黙示にかかわらず、発行者（当事務所）がこれを保証するものではありません。